

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 (富士山ユニット)		
所在地	御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2291200059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2291200059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年後8月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族や地域の方が気軽に足を運んでいただけるとともに、皆さんがのんびりくつろいで過ごすことのできるよう家庭的で温かい雰囲気づくりに配慮している。  
また、ご利用者ひとりひとりの能力を見極め、出来ることはご自分で、互いに助け合いながら日々の生活を送っていただけるよう、スタッフが過度に介入し過ぎず、ご利用者主体となって物事を行っていただけるような言葉がけや環境作りに配慮しながら支援を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

最高齢となる96歳の利用者も壮健で、要介護1が5名、2が6名、平均介護度2.2と、デイサービス並みの元気集団からは当然退去者は出そうにもないのですが、夫妻も含め10件の待機者がある人気の事業所です。自宅に一度戻ることができた後現在再入居の人もいて、「在宅復帰」できるよう本人の残存機能を最大限生かすことを旨としています。コロナ禍となる前はブドウやいちご狩りなどの外出イベントも盛んでしたが、現在は身近にある財を生かして畑作業や園芸、庭でのBBQ、模擬外食、車から降りないドライブ外出など工夫に励み、また室内では常に窓を開放(冷房の設定温度を下げ)しての暮らしがつつがなく続いています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を復唱し、スタッフ間で共有化を図っている。また、会議や内部研修の際に理念を踏まえたケアの実践について職員間で振り返りの機会等を設けている。	採用や法人内の異動で新人が入職したら必ずオリエンテーションを開催、その中で理念についても話しています。信仰に基づく理念とあってクリスチヤンの職員は理解が深いということはあるが、自己評価と個人面談を以て概ね浸透が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日課である散歩等を通じて、近所の方と挨拶を交わしたり、買い物では馴染みの方とお会いし、会話を楽しまれている。また、地域の行事にも積極的に参加するように心がけている。	コロナ禍となり、人の出入りが大幅に削減されていますが、密などに留意して野菜の育成指導や共用空間の演出(タペストリー交換)に近隣住民が関わってくださっています。民生委員も気にかけてくださり、玄関先での立ち寄りもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一人として、認知症に関する情報提供の普及に努めているとともに、近隣の小学校の総合学習の受け入れや、中学生のボランティアの受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointを使用し、ご利用者の日々の生活の様子や行事の報告を行っている。その場で意見が上がった場合は職員会議等の場で周知し、サービス提供に反映できるよう努めている。	運営推進会議は3月、5月は書面開催(所内で2ヶ月の活動をまとめてメンバーに郵送)で代替し、7月にやっと通常開催が叶っています。会議資料はデータや行事、詳細な事故報告などが記載され、真摯さが伝わる構成ですが、7月には特にコロナ対策を中心に話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等は郵送ではなく直接、役場へと持参し、その場で情報交換を行うなど顔の見える関係性を築くとともに、市の見守りネットワークにスタッフが登録することなどで協力関係を築いている。	コロナ禍の運営推進会議の開催方法については地域包括支援センターにも問い合わせ、助言を得て事なきを得ています。また、7月の再開では市役所職員を中心に予防や補助金などの貴重な助言、提案を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っている話し合いの中で、実際の業務を通じて不適切な言葉がけやケアが行われてしまう可能性が高い場面など想定し、改善策を職員間で検討する機会を設けるなどしている。	身体拘束未実施減算に係る内容は整備され、身体拘束適正化検討委員会の開催も10回を重ねています。オリエンテーション内でおこなう新人研修も異動者やパートタイマー職などをすべてを対象者として取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の一環として定期的に職員に周知することで、虐待を未然に防ぐまたは早期発見に努めながら業務にあたっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学ぶ機会を設けるとともに、現在、成年後見制度を活用されているご利用者おり、連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明時にご家族の不安や疑問点に配慮しながら丁寧に説明を行うよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置するとともに、ご家族が面会に来られた際、可能な限り情報交換を行いながら信頼関係構築に努めている。ご利用者に対しても普段の会話の内容などに耳を傾け、ちょっとした要望にもお応えできるよう努めている。	面会は玄関先にあるベンチでとして制限を設けています(県外からは自粛)。2ヶ月に1回発行の事業所便りのほか、面会頻度の低い家族には生活記録も送付しています。職員を心配して全員分のマスクを手作りして届けてくれた家族もいて、概ね良好な関係にあります。	一部の家族にはもう少し踏み込んで説明したり、詳しい記録提示が必要かもしれないことがアンケートで掴めていますので、今後の是正を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に業務改善に関する事などを意見交換するとともに、なかなか発言ができないスタッフに対しては意見箱を設置し、匿名で自身の考えを伝えることができるようにしている。	未だ入ったことはありませんが、職員意見をできる限り取り入れたいとして職員用の意見箱を設置しており、年2回飲みコミュニケーションの場もあります。また、「新型コロナウイルス接触確認アプリ」のダウンロードを職員に奨励、コロナ対策へも職員一丸となって取組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定、育児介護休暇等の規則などを整備し、経験や資格等に応じ給与を定めたり、育児や介護をしながら就業継続できるよう努めている。また、有給消化率の向上や時間外労働の減少を目指し、目標などを設置し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントや入所初期にはご本人の言動などに十分に配慮し、不安なことや要望に迅速に対応できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より在宅介護での不安など伺い、ご家族の気持ちに寄り添えるよう配慮するとともに、入所後も情報交換をこまめに行うことで信頼関係を築きあげることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前よりご本人・ご家族双方の意向を確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者主体の生活であることを意識し、出来る事には手を下さず、ご利用者がご自分で気づき動くことができるようなケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族との絆を維持できるよう、施設側からも積極的に外出や外泊支援が行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との交流はもちろんのこと、馴染みのお店等に行き、親しい方との関係が継続できるようご家族の協力を得ながら努めている。	お彼岸のおはぎ、桃の節句には桜餅、節分は恵方巻と馴染みの時節行事は皆でつくって、食べて愉しんでいます。イベントでは笑顔の表情をふんだんに撮影、メールで配信して、コロナ禍で面会が儘ならない双方の気持ちをおもんばかっての心遣いがみられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を通じ、時には喧嘩をし、互いに助け合いながら生活が送れるよう環境づくりなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へと移行された方に関しては、定期的の特養へと様子伺いに行きながら、相談員やスタッフとも情報交換を行っている。また、在宅復帰された方に関しても、担当ケアマネジャーに定期的に情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴や日常の言動、表情などから希望をくみ取れるよう努めている。	皆で何かする楽しみをつくる一方で、個別の生活リズムを大切にしています。遅くまで自室でテレビに耽る人は自然と朝寝となり1日の流れが独特ですが、事業所の生活に溶け込めています。また、華道師範だった人には今でも活かしてもらい、有用感を支援する例も多くあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご利用していたサービス提供事業者などからできる限り詳細な情報収集を行うとともに、センター方式の一部を活用することによりその方の人となりを理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや食事・水分摂取量の把握はもちろんのこと、24hシートや生活記録を通じ、ご利用者の状態把握に努めるとともに、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・ケアマネジャーを中心に毎月行われる会議内でご利用者の現状を踏まえた支援方法の見直しを行うとともに、必要に応じてご家族や多職種とも情報共有を行いながら現状に即した介護計画の作成に努めている。	カンファレンス、モニタリング、サービス担当者会議と定例の段取りを漏れなく実施するとともに、センター方針の一部を導入して利用者本人の「今、此処の」姿に寄り添う介護計画書を作成する仕組みがあります。ニーズ、目標、サービス内容が簡潔で具体的、判りやすいプランです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録へと日々の生活の様子を記載している。気づきがあれば職員間で話し合い、連絡ノートを活用し情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況により日々変化するニーズに臨機応変に対応できるよう、柔軟な姿勢を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の諸行事へと積極的に参加し、地域住民の方と交流が図れるよう努めているとともに、ご利用者の希望や状況等、必要に応じて地域資源へと繋げられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を基本としつつ、在宅からのかかりつけ医を希望される方は、可能な限りご要望にお応えできるよう努めている。	全員が協力医へ変更しており、2週間に1度の定期受診がおこなわれていますが、急な往診はサブ的に2つ目の協力医が担当しています。毎週、訪問歯科の受診を設け、口腔ケアや嚥下機能などの指導、助言を受けることで、誤嚥性肺炎等の病気予防につなげようと励んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃よりご利用者の状態に気を配り、少しでも変化が見られた場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医の看護師やMSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能な限り早期で退院できるよう柔軟な対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変わりゆくご利用者の状態に合わせて、ご家族へもその都度、説明を行うとともに、その際にご家族の意向も確認するように努めている。	「重度化した場合の対応にかかる指針」を以て契約時に家族には説明のうえ、看取りの希望があれば取組むこととしていますが、実際は母体の特別養護老人ホームや病院へ移るケースが大半のため、ここ数年実績らしいものはありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修へ参加するとともに、定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、不測の事態に対して、冷静に的確な対応がとれるよう努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。	夜間想定と、地震からの火災で年2回の法定訓練を無事終えています。異動など新任者が数名いましたが、オリエンテーションでは通報システムの説明をおこなうとともに、訓練でも「初めて」がないよう勤務調整のうえ体験してもらえよう配しています。ランタンも各自1つずつあり、備品も充実しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者ひとりひとりの人格を尊重し、言葉かけに配慮するとともに、常に尊敬の念を持ちながら支援が行えるよう努めている。	リビングで新聞広告をみながら「これ食べたいね」と雑談したり、できる趣味がなくなってしまった人には簡単にできるスクラッチアートを提供したり、一人ひとりが過ごしやすいよう気遣うとともに、軽度な人も多いことから利用者の前での申し送りがないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のその時々のお思いや希望におお応えできるように、また、ご利用者自らが自身の思いを出せる様な関係作りを心がけるとともに、ご利用者の行動や表情から思いを読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設として1日の大まかな流れはあるものの、ご利用者ひとりひとりの生活のペースを尊重し、その時々により、それぞれが思い思いの時間を過ごすことできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類を一緒に選んでいただいたり、使い慣れた化粧品を継続して使用できるようにするなど、おしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を見極め、出来る事をそれぞれ行っていただくことにより、互助の関係を築くとともに、達成感を感じていただけるよう支援している。	献立は予めあるも、「冷蔵庫にA、B、Cがあるけど、何を作りましょうか」と利用者問いかけて、一緒に考えています。まだ包丁が使える人もいて、ぬか床の管理も手伝ってもらっています。笑みの里農園はさつま芋、ピーマン、茄子、ネギなど豊作で、採れたてが食卓にのぼっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、スタッフ間で共有するとともに、個々の状況に応じて代替品等を通じて不足分を補えるよう支援している。また、可能な限りその方に適した形態で召し上がっていただけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士と連携をとり、個々の口腔内の状態や能力に応じた支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導を行うとともに、日頃よりご利用者の様子を注意深く観察し、尿意・便意のサインを見逃さずにトイレ誘導が行えるよう努めている。	「自分でできることは自分で」を核とし、「おむつを使わないケア」「出来る限りトイレで」を目指して、排泄の自立支援にあたっています。車いすであっても立位を保っているため、現在も全員が「トイレで」が叶い、パットの種類も8と増えていることから本人本位の態勢が伝わります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の規則正しい生活を基本とし、便秘改善に良いとされる、食材を積極的に使用し、薬に頼らず、自然排便がもよおせるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を基本とし、それ以外でもご利用者の希望に応じて、可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。	2日に1度を清潔の目安としています。誘ってみて嫌がる時は無理強いしないように時間をずらしたり、日を変えることはいりませんが、これまでのパターンから「本人のタイミングで立ち上がった時誘うとスムーズ」という法則を掴んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調面に気を配り、必要に応じて言葉がけ等を行い、休息していただけるよう支援している。また、室温や調光等、環境面にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をいつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった際は、連絡ノートを通じ職員間で情報共有を行うとともに、記録を残しながら経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や裁縫、生け花などひとりひとりの得意分野を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じ、買い物支援を行うとともに、いちご狩り、ブドウ狩りといった季節に応じた外出等も毎年の恒例行事となっている。その他にも定期的に近隣のレストランへおやつ外出等も行っている。	ドライブにでも降りずに景色を眺めるだけしたり、人気のない公園で花見をしたりと、コロナ禍であっても人と接触せずすむ外出に切り替えています。散歩や外気浴を意識的に増やし、また庭でBBQしたり、笑みの里農園でリフレッシュを図っています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物があればその方のお小遣いで職員と一緒に買い物へ出かけ、可能な方は支払いも自分で行っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連絡をとりたいと希望される方がいらっしゃる際は、ご家族へと連絡し、お話しできるように支援をしている。手紙に関してもご家族と手紙のやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より整理整頓を心がけるとともに、温度・湿度調整に関しても気を配りご利用者が快適に過ごしていただけるよう努めている。また、庭の花を飾ったり、季節の飾りつけを行うことで、四季を感じていただけるよう配慮している。	コロナ対策として冷房の設定温度を下げ窓は常に開け、日に3回の清掃をおこなっています。楽しみにしていた盆踊りもできなくなって室内で開催した名残の提灯が賑やかに揺れるリビングでは、席の配置も職員が配慮して気持ちよく過ごしてもらえるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファをご利用者の関係性を考慮しながら、配置替えを行い、共用スペースの他にセミパブリックスペースも確保することで、お一人や少人数でのんびり過ごしていただけるような空間作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の段階で、可能なかぎりご自宅で使い慣れた家具等をお持ちいただき、ご本人が安心して、心地よく過ごしていただける居室づくりに努めている。	最近持ち込みが少なく、使い慣れた筆筒ではなくプラスチックの衣装ケースを新たに購入して入居する人が増えています。入居したらそのままではなく、トイレに向かいやすいようにベッドの位置を変更した例をはじめ、ADL等変化に応じて動線を変える支援をおこなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札はあえて付けず、目印となる飾りを付けることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境作りに配慮するとともに、ひとりひとりの能力を見極め、可能なかぎり残存能力を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 (羽衣ユニット)		
所在地	御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2291200059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2291200059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年後8月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族や地域の方が気軽に足を運んでいただけるとともに、皆さんがのんびりくつろいで過ごすことのできるよう家庭的で温かい雰囲気づくりに配慮している。  
また、ご利用者ひとりひとりの能力を見極め、出来ることはご自分で、互いに助け合いながら日々の生活を送っていただけるよう、スタッフが過度に介入し過ぎず、ご利用者主体となって物事を行っていただけるような言葉がけや環境作りには配慮しながら支援を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

最高齢となる96歳の利用者も壮健で、要介護1が5名、2が6名、平均介護度2.2と、デイサービス並みの元気集団からは当然退去者は出そうにもないのですが、夫妻も含め10件の待機者がある人気の事業所です。自宅に一度戻ることができた後現在再入居の人もいて、「在宅復帰」できるよう本人の残存機能を最大限生かすことを旨としています。コロナ禍となる前はブドウやいちご狩りなどの外出イベントも盛んでしたが、現在は身近にある財を生かして畑作業や園芸、庭でのBBQ、模擬外食、車から降りないドライブ外出など工夫に励み、また室内では常に窓を開放(冷房の設定温度を下げ)しての暮らしがつつがなく続いています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を復唱し、スタッフ間で共有化を図っている。また、会議や内部研修の際に理念を踏まえたケアの実践について職員間で振り返りの機会等を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日課である散歩等を通じて、近所の方と挨拶を交わしたり、買い物では馴染みの方とお会いし、会話を楽しませている。また、地域の行事にも積極的に参加するように心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一人として、認知症に関する情報提供の普及に努めているとともに、近隣の小学校の総合学習の受け入れや、中学生のボランティアの受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointを使用し、ご利用者の日々の生活の様子や行事の報告を行っている。その場で意見が上がった場合は職員会議等の場で周知し、サービス提供に反映できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等は郵送ではなく直接、役場へと持参し、その場で情報交換を行うなど顔の見える関係を築くとともに、市の見守りネットワークにスタッフが登録することなどで協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っている話し合いの中で、実際の業務を通じて不適切な言葉がけやケアが行われてしまう可能性が高い場面など想定し、改善策を職員間で検討する機会を設けるなどしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の一環として定期的に職員に周知することで、虐待を未然に防ぐまたは早期発見に努めながら業務にあたっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学ぶ機会を設けるとともに、現在、成年後見制度を活用されているご利用者おり、連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明時にご家族の不安や疑問点に配慮しながら丁寧に説明を行うよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置するとともに、ご家族が面会に来られた際、可能な限り情報交換を行いながら信頼関係構築に努めている。ご利用者に対しても普段の会話の内容などに耳を傾け、ちょっとした要望にもお応えできるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に業務改善に関する事などを意見交換するとともに、なかなか発言ができないスタッフに対しては意見箱を設置し、匿名で自身の考えを伝えることができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定、育児介護休暇等の規則などを整備し、経験や資格等に応じ給与を定めたり、育児や介護をしながら就業継続できるよう努めている。また、有給消化率の向上や時間外労働の減少を目指し、目標などを設置し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントや入所初期にはご本人の言動などに十分に配慮し、不安なことや要望に迅速に対応できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より在宅介護での不安など伺い、ご家族の気持ちに寄り添えるよう配慮するとともに、入所後も情報交換をこまめに行うことで信頼関係を築きあげることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前よりご本人・ご家族双方の意向を確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者主体の生活であることを意識し、出来る事には手を下さず、ご利用者がご自分で気づき動くことができるようなケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族との絆を維持できるよう、施設側からも積極的に外出や外泊支援が行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との交流はもちろんのこと、馴染みのお店等に行き、親しい方との関係が継続できるようご家族の協力を得ながら努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を通じ、時には喧嘩をし、互いに助け合いながら生活が送れるよう環境づくりなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へと移行された方に関しては、定期的の特養へと様子伺いに行きながら、相談員やスタッフとも情報交換を行っている。また、在宅復帰された方に関しても、担当ケアマネジャーに定期的な情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴や日常の言動、表情などから希望をくみ取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご利用していたサービス提供事業者などからできる限り詳細な情報収集を行うとともに、センター方式の一部を活用することによりその方の人となりを理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや食事・水分摂取量の把握はもちろんのこと、24hシートや生活記録を通じ、ご利用者の状態把握に努めるとともに、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・ケアマネジャーを中心に毎月行われる会議内でご利用者の現状を踏まえた支援方法の見直しを行うとともに、必要に応じてご家族や多職種とも情報共有を行いながら現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録へと日々の生活の様子を記載している。気づきがあれば職員間で話し合い、連絡ノートを活用し情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況により日々変化するニーズに臨機応変に対応できるよう、柔軟な姿勢を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の諸行事へと積極的に参加し、地域住民の方と交流が図れるよう努めているとともに、ご利用者の希望や状況等、必要に応じて地域資源へと繋げられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を基本としつつ、在宅からのかかりつけ医を希望される方は、可能な限りご要望にお応えできるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃よりご利用者の状態に気を配り、少しでも変化が見られた場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医の看護師やMSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能な限り早期で退院できるよう柔軟な対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変わりゆくご利用者の状態に合わせて、ご家族へもその都度、説明を行うとともに、その際にご家族の意向も確認するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修へ参加するとともに、定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、不測の事態に対して、冷静に的確な対応がとれるよう努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者ひとりひとりの人格を尊重し、言葉かけに配慮するとともに、常に尊敬の念を持ちながら支援が行えるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のその時々のおもひや希望におお応えできるように、また、ご利用者自らが自身のおもひを出せる様な関係作りを心がけるとともに、ご利用者の行動や表情からおもひを読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設として1日の大まかな流れはあるものの、ご利用者ひとりひとりの生活のペースを尊重し、その時々により、それぞれがおもひおもひの時間を過ごすことのできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類を一緒に選んでいただいたり、使い慣れた化粧品を継続して使用できるようにするなど、おしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を見極め、出来る事をそれぞれ行っていくことにより、互助の関係を築くとともに、達成感を感じていただけるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、スタッフ間で共有するとともに、個々の状況に応じて代替品等を通じて不足分を補えるよう支援している。また、可能な限りその方に適した形態で召し上がっていただけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士と連携をとり、個々の口腔内の状態や能力に応じた支援を行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導を行うとともに、日頃よりご利用者の様子を注意深く観察し、尿意・便意のサインを見逃さずにトイレ誘導が行えるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の規則正しい生活を基本とし、便秘改善に良いとされる、食材を積極的に使用し、薬に頼らず、自然排便がもよおせるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を基本とし、それ以外でもご利用者の希望に応じて、可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調面に気を配り、必要に応じて言葉がけ等を行い、休息していただけるよう支援している。また、室温や調光等、環境面にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をいつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった際は、連絡ノートを通じ職員間で情報共有を行うとともに、記録を残しながら経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や裁縫、生け花などひとりひとりの得意分野を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じ、買い物支援を行うとともに、いちご狩り、ブドウ狩りといった季節に応じた外出等も毎年の恒例行事となっている。その他にも定期的に近隣のレストランへおやつ外出等も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物があればその方のお小遣いで職員と一緒に買い物へ出かけ、可能な方は支払いも自分で行っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連絡をとりたいと希望される方がいらっしゃる際は、ご家族へと連絡し、お話しできるように支援をしている。手紙に関してもご家族と手紙のやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より整理整頓を心がけるとともに、温度・湿度調整に関しても気を配りご利用者が快適に過ごしていただけるよう努めている。また、庭の花を飾ったり、季節の飾りつけを行うことで、四季を感じていただけるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファーをご利用者の関係性を考慮しながら、配置替えを行い、共用スペースの他にセミパブリックスペースも確保することで、お一人や少人数でのんびり過ごしていただけるような空間作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の段階で、可能なかぎりご自宅で使い慣れた家具等をお持ちいただき、ご本人が安心して、心地よく過ごしていただける居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札はあえて付けず、目印となる飾りを付けることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境作りに配慮するとともに、ひとりひとりの能力を見極め、可能なかぎり残存能力を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。		